

佳作

できた時のうれしさ

静岡県 静岡市立東中学校二年 木村 海斗

僕は、先天性四肢障害がある。生まれつき右手が小さい。物を握ることは不可能だ。幼い頃から、何でも自分でできるように工夫と努力を繰り返してきた。

これは、僕が小学校一年生の時の話だ。幼稚園児の時から通っている体操教室で、鉄棒の練習をしていた。右手は鉄棒を握ることができないので、右手首を鉄棒にひっかけ、ぶら下がることから始めた。そこから、逆上がりにチャレンジした。一緒に練習していたまわりの子達は、次々にクリアしてどんどん上手くなる。僕は、何ヶ月経ってもできないままだった。悔しかった。

ある日、父に弱音を吐いた。

「僕は大人になっても、きっと逆上がりはできない。この手じゃ嫌だ。」

それを聞いていた母が、僕を抱きしめた。その時

は泣いてしまったけれど、まだ諦めてはいなかった。どうしても成功させたかった。

母から聞いた話だと、僕が右手のことでネガティブな発言をしたのはその時だけらしい。

逆上がりの練習を続け、ついに成功した。

「やった!!」

母と抱き合って喜んだ。先生も皆も拍手をくれた。すごく嬉しかった。努力が報われたのだ。長い間できず、途中でくじけそうになったけれど、諦めないで頑張ったよかった。

他の人には当たり前のことや、何でもないことでも、僕にとっては大きなチャレンジだったりする。どうしてもできないことだってきつとある。でも、チャレンジする前から、「できない」と決めないようにしている。だって、逆上がりだってできたんだから。

父に言われた。

「お前にはたくさん可能性がある。」

そうなんだ。僕だってできるんだ。逆上がりを成功させた時みたいに。頑張ることは無駄じゃない。あの時の感動が、今の僕を支えている。頑張る力になっっている。

あれからも、練習してできるようになったことは

たくさんある。

縄跳びは、始めた頃は両手で縄を回すことが精一杯だった。五年後には、二重跳びや後ろ二重跳びもできるようになった。

リコーダーは、特殊な笛を使い、皆と一緒に演奏できるようになった。

どれも簡単なことじゃなかった。でも、やらなきゃできないままだった。やっぱり、できると嬉しい。

これからも僕のチャレンジは続く。